

【特色ある取組事例】

| | |
|--------|-----|
| 都道府県番号 | 27 |
| 都道府県名 | 大阪府 |

()

・学校名及び規模

| | | | | | | | | | |
|-----------|----|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 大阪市立大江小学校 | | | | | | | | | |
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 養護学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 13 | 18 |
| 児童数 | 51 | 59 | 69 | 58 | 61 | 54 | 6 | 358 | |

・実践研究の概要（主題及び設定の趣旨）

（１）研究主題

自ら考え、判断し、行動する、心豊かな子どもの育成
- 基礎・基本を確実に身につけさせ、確かな学力の向上を図る算数指導のあり方 -

（２）研究主題設定の趣旨

本校では、昨年度、研究主題として、『自ら考え、自ら判断し、自ら行動する子どもの育成 - 基礎・基本を身につけさせるための個に応じた算数指導のあり方 -』を設定し、基礎・基本の定着に焦点をあてた研究を推進してきた。具体的には、算数科における基礎・基本の定着を図るために、評価カードを活用して、それぞれの子どもの理解や習熟の状況を的確に評価し、その評価をもとに、それぞれの子どもの実態に合わせた個に応じた指導を実践してきた。その結果、子どもたちは学ぶことの楽しさや理解することの達成感を味わいながら、意欲を持っていきいきと学習にとりくむことができるようになった。

本年度は、昨年度の実践をふまえた上で算数科における基礎・基本のさらなる定着と確かな学力向上を図る必要がある。そこで本年度は、『自ら考え、判断し、行動する、心豊かな子どもの育成 - 基礎・基本を確実に身につけさせ、確かな学力向上を図る算数指導のあり方 -』という研究主題のもと、数と計算領域に重点を置いて研究を進めていった。具体的には、評価カードを効果的に活用したり、指導形態を工夫したりして、個に応じた指導の充実を図るようにした。

・研究の実際

(1) 研究のねらい

本校では、算数科における基礎・基本を日々の授業で確実に理解させるとともに、自ら学んだり考えたりする力や、問題をよりよく解決したりする力などの「確かな学力」を向上させることをめざした取り組みを行ってきた。

子どもが本当に学習内容を理解できているかどうかを指導者が明確に把握せずに、ともすれば子どもに一方的に説明して1時間が終わってしまうような授業では、子どもに日々の学習内容を確実に理解させたり、子どもたちに自ら考えたり、よりよく問題を解決したりする力を育てることはできない。

そこで、子ども一人一人の学習習得状況を的確に把握して、個に応じたきめ細かな指導を行い、指導法の改善等に取り組んだ。

(2) 研究の概要

授業形態の工夫

【少人数指導】

1つのクラスを複数のグループに分けたり、またはクラスの枠をはずして学年を複数のグループに分けたりして少人数で授業を行う形態である。

少人数指導によって、従来よりきめ細かな指導ができるだけでなく、より多くの子どもに発表の機会が与えられることになる。



〔少人数指導〕

【コース別指導】

学習の進め方や学習課題別に複数の「学習コース」に分かれて授業を行う形態である。コース別指導によって、子ども一人一人の学習への思いや可能性に寄りそった指導を行うことができ、一人一人に学習に対する意欲を高めることができる。

【チーム・ティーチング】

1クラスを複数の指導者で指導する形態である。複数で子どもへの指導にあたれるので、従来の指導と比べて、より個に応じたきめ細かな指導が可能になる。

評価カード(「ばっちりカード」)の活用

評価カードとは、その時間で学習する基礎・基本が理解できているかどうかを評価するための数種類の問題から構成されているカードのことで、本校では、「ばっちりカード」と呼んでいる。子ども達は1時間の学習の終わりに、「ばっちりカード」の問題に取り組む。問題が解ければ、その子どもはその時間の基礎・基本が理解できて

いることになる。問題が解けていない子どもには、その子どものつまずきの段階に合わせて指導者が個別に指導して、学習内容を確実に理解させるようにする。

また、「ばっちりカード」のうらには、「チャレンジ」問題を用意している。「チャレンジ」問題は学習内容を理解できた子どもが取り組む発展的な問題で、その問題に取り組ませることで、子ども達が今までに学習した内容をより広げたり深めたりできるようにしている。



〔ばっちりカードを活用した指導〕

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">ばっちりカード (分数のたし算とひき算⑤) 6年 組()</p> <p style="text-align: center;">ふりかえり</p> <p>[1] () の中の分数を通分しましょう。 ($\frac{3}{4}$, $\frac{5}{6}$)</p> <p style="text-align: center;">ばっちり</p> <p>[2] $\frac{1}{2} + \frac{2}{5}$ の計算の仕方を考えましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>$\frac{1}{2}$ と $\frac{2}{5}$ では分母の数がちがうので、() して分母の数を同じにしてから計算します。</p> </div> $\frac{1}{2} + \frac{2}{5} = \frac{5}{\square} + \frac{4}{\square}$ $= \frac{\square}{\square}$ | <p style="text-align: center;">チャレンジ</p> <p>[3] 次の計算をしましょう。</p> <p>① $1\frac{1}{9} + \frac{1}{3}$ ② $2\frac{1}{6} + 3\frac{2}{15}$</p> <p>③ $3 + \frac{2}{3}$ ④ $0.2 + \frac{3}{8}$</p> <p>⑤ $3\frac{1}{6} + 2.3$ ⑥ $3\frac{2}{3} + 2\frac{1}{2}$</p> |
|---|--|

〔ばっちりカードの例(左:おもて 右:うら)〕

「算数タイム」

本校では、今年度より週2回、朝の会の時間を活用して、「算数タイム」を実施している。

「算数タイム」で、子どもたちは今まで学習した計算問題などに繰り返し取り組み、学習内容をより確実に、かつ楽しく身につけることを目標にして取り組んでいる。



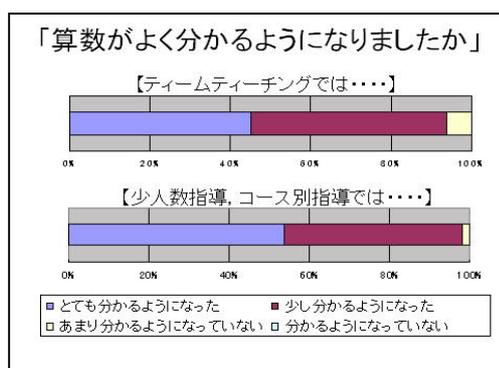
〔算数タイム〕

(3) 研究の成果と課題

成果としては、以下の点が挙げられる。

評価カードの効果的な活用を工夫することにより、それぞれの子どもの学習に対する評価が確実にでき、理解が十分でない子どもには個別の指導を行うことができた。また、子どもにとっては励みになり、「分かった」という成就感を持たせることができた。

チーム・ティーチングやコース別指導等の指導形態に関して、それぞれの指導形態で学習して算数がよく分かるようになったかどうかについて子どもたちへのアンケートをとった。その結果、「分かるようになった」という肯定的な意見がチーム・ティーチングでは約95%、少人数指導やコース別指導では、約98%得られた。また、子どもたちにそれぞれの指導形態に対する感想も聞いたところ、「自分にあった勉強ができてよかった」や「算数が前より分かりやすくなった」などの肯定的な意見が多く聞かれ、学習に対する意欲も高まってきた。



〔アンケート結果〕

今後の課題としては、以下の点が挙げられる。

評価カードをより活用しやすいものにしたたり、効果的な活用の仕方をさらに工夫する等、評価カードによる評価活動と個に応じた指導を継続して研究・実践する。

チーム・ティーチング、少人数指導、コース別指導等様々な指導形態を実践し、それぞれの指導形態の特性や問題点を整理するとともに、子ども一人一人に合ったきめ細かな指導や支援のさらなる充実をめざす。

特にコース別指導については、単元末の発展的な学習や補充的な学習に分かれた指導に重点を置いて実践を進める。また発展的な学習や補充的な学習の教材開発にも取り組んでいく。

| | |
|----------------------|----------------|
| 【新規校・継続校】 | 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | 13～18学級 |
| 【指導体制】 | 少人数指導、T・Tによる指導 |
| 【研究教科】 | 算数 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 無 |

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

算数科を中心とした分かる授業の創造

子ども一人一人の学習習得状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導を行い、指導法の改善等に取り組んでいる。

授業形態の工夫、少人数指導やコース別指導等の場に応じた指導形態の検証
学習評価カードの活用（「ばっちりカード」）、学習理解の把握確認